



ながれ

相手に気持ちの伝わるあいさつ

副校長 深尾 剛

「おはようございます。」

毎朝校門では、子供たちの声が響いています。今年度から戸三小では、子供たちによるあいさつ運動が行われています。あいさつは、自分の心を開くことで、相手の心を開き、相手の心に近づいていくことができます。まさにコミュニケーションの第一歩です。人とあいさつがきちんとできると、とても気持ちが良いものです。

あいさつ運動を終えた子供たちに、良いと思ったあいさつはどんなあいさつか聞いてみると「元気にしてくれるあいさつ。」「こっちを見てしてくれるあいさつ。」「おじきしてくれるあいさつ。」という声が返ってきました。その答えに、もっともだと思いました。ある本で読んだのですが、人の第一印象は、その人の話した言葉が7%、声の大きさや口調が38%、話すときの表情やしぐさが55%の割合を占めるそうです。あいさつとして何を言ったかということだけでなく、あいさつするときの表情や動作が重要だということです。

学校では「語先後礼（ごせんごれい）」を大切にしています。「語先後礼」は、言葉を先に言い、お辞儀を後にすることで、あいさつの基本とされています。日常的なあいさつは、「同時礼」（言葉とお辞儀が同時）で行うことも多いですが、言葉を発しているときは床に向いていることとなります。「語先後礼」ですと、相手の目や表情を見てあいさつができるという良い点があります。学級を見てまわると、朝のあいさつ、授業でのあいさつ等で「語先後礼」が少しずつ定着してきています。

「おはようございます。」

気持ちの良いあいさつのできる子が、戸三小の中で増えてきています。学校でも、家庭でも、どこでも戸三小の子供たちが、相手に気持ちの伝わるあいさつができるようにしていきたいと思います。御協力をお願いいたします。



【登校時のあいさつ運動】

学年の窓 — 3年

3年1組担任 永井 輝彦

今年度が始まって3か月が過ぎました。授業では、落ち着いて学習に取り組んだり、休み時間は、元気に外で遊んだりする子供が増えてきました。

3年生になり、クラス目標を決めました。「元気なあいさつ」「給食の準備は15分以内」「チャイム着席」等、クラス全員で話し合いました。目標がなかなか達成できない時は、子供たちが学級会で司会進行し、みんなで何度も話し合いました。クラス目標達成に向けて、頑張ろうとする子供が増えてきました。例えば、授業が始まる前に、「そろそろチャイムになるよ。」「チャイム着席。チャイム着席」とみんなで声を掛け合っている姿を見て、クラス全体の成長を感じています。

今、3年生はダイズやオクラ、マリーゴールド、ハウセンカといった、たくさんの植物を育てています。子供たちは、休み時間に忘れず水やりをしたり、雑草を抜いたりして、元気に育つように主体的に活動しています。

このように、教師から言われたことをやる受け身ではなく、何事も自分から進んで取り組めるように、引き続き、努めていきます。